

## JCD 第3回業務体験発表会報告書

(一社) 日本コンクリート診断士会

1. 日 時：平成 27 年 11 月 27 日（金）12:30～17:20
2. 場 所：金沢市 IT ビジネスプラザ武蔵
3. 参加者：86 名（発表者 13 名、正会員 60 名，法人会員 5 名，非会員 8 名）
4. 司 会：総合司会：古川石川県コンクリート診断士会会長  
発表会進行：技術部会，奥田技術部会長・奥村技術副部会長

### 5. 開会挨拶

林会長からは全国の地区診断士会ら，貴重な業務体験を一堂に発表することにより，JCD 全体の技術力向上に大変有意義である。との挨拶があった。

### 6. 開催経緯

JCD は全国の会員に各地区診断士会の会員が業務で得た技術的ノウハウを水平展開することを目的に「業務体験発表会」として 2014 年 2 月に東京にて第 1 回が開催された。今年度は地方開催の要望も強くあり，塩害・ASR 対策の先駆けとなっている石川県に会場を移し，昨年 11 月 27 日（金）に金沢市にて開催された。

北陸新幹線開業効果もあって，遠くは青森，鳥取，宮崎，大分と全国各地から 86 名が参加し，13 名の会員の発表があった。

### 7. 発表内容

発表の題目と発表者を表-1 に示す。何れもコンクリート構造物の維持管理に欠かせない種々の分野の発表であり，全国組織でなければ聴くことができないような味のある内容が多くあった。発表毎の質問タイムでは，質問のみならず，見解・提案までが各分野の専門家から出され，時に熱い議論となり司会者を慌てさせる場面もあった。

個々の内容を詳しくは紹介できないが，「維持管理における PDCA サイクルについて，様々なコンクリート構造物を対象に実業務で体験したことを報告された貴重な発表であった」と講評した。

特に印象に残ったのを挙げるとすれば，6 と 13 です。何れも主題の業務体験とは少し距離を置いた発表であったが，木村会員は，今，地球規模で課題となっているサステナビリティ（“Sustainability”=持続可能性）をコンクリート分野に視点を当てた場合に，診断士の担う役割を掲げ，技術力の研鑽と合わせて行動規範の重要性を述べ，JCD の今後の針路を示唆した内容であった。鈴木会員は，市内にあるコンクリート構造物のひび割れ・遊離石灰などのいろいろな変状を，案内人の引率で見回り定期勉強会（サロン）で発表するというユニークな活動の発表であった。〇〇研修会など堅苦しい催しでなく，大人の“探偵ごっこ”（失礼）を通して会員のスキルアップを図る活動で，地区会で取り入れたら面白い活動ではないかと感じた。

今回は 13 名もの方の発表で，5 時間にわたる長丁場であったが，会場の参加者からも笑いを誘ったトリを飾るにふさわしい発表であった。発表論文資料は当会のホームページ内の会員専用ページに掲載しているので参考にしていきたい。

表-1 第3回業務体験報告会の題目と発表者

	題 目	発 表 者	所 属
1	横締め破断が確認された ASR 劣化 PCT 桁の耐荷性評価	亀田 浩昭	石川
2	塩害の影響を受けた道路構造物の補修設計事例	柴原 幸	福井
3	半世紀経過した堰堤の劣化事例	徳武雅博	長野
4	カメラ撮影によるひび割れ調査例	柳 益男	新潟
5	打音検査システム	斎田浩之	東海
6	コンクリート診断士とサステイナビリティ	木村克彦	東京
7	長期耐久性を有する環境に優しい補修材料の開発と適応	佐藤一也	東海
8	衝撃弾性波法による PC シース管グラウト充填度調査	大久保員良	京滋
9	橋梁補修設計と補修後の効果確認事例紹介	植木高志	鳥取
10	場所打 RC 床版におけるひび割れ抑制対策	熊谷真孝	静岡
11	既設 RC 固定アーチ橋の補修・補強設計事例	児玉明裕	大分
12	48 年および 52 年供用された橋梁の劣化度調査	平塚正人	宮崎
13	コンクリート探偵団（合同診断演習について）	鈴木智郎	広島



写真-1 発表会場風景

文責：JCD 理事 技術部会長  
奥田 由法